

# 第五回 湘南ひらつか能狂言

ひらつかゆかりの演目

復曲『真田』



平塚の武将、岡崎義実の息子、真田与一が出陣した石橋山の合戦、その様子を伝える能「真田」が復曲されました。

与一の地元平塚の地で、このたび初公演が実現します。

また本年は、天徳寺にある与一公の廟所が改築され、九月二十一日には盛大なお祭りが行われます。

『真田』復曲について

能の上演に際しては、謡本の他に型付け（動き方）、間狂言、囃子の手付けなどの書き物と能面・能装束が伝えられています。『真田』は、江戸時代の謡本があるものの、その謡い方や詳細がわかりませんでした。湘南ひらつか能狂言実行委員会では、早くから加藤真悟師に『真田』復曲の依頼をしており、前回の「湘南ひらつか能狂言」では、一部分を独吟で復元することができました。

今回は、能上演にあたり『真田』復曲検討会を立ち上げ、梅若万三郎師をはじめ、当時の謡の音律を研究する丹羽幸江先生（昭和音楽大学講師）、中世文学・能楽研究者で切合能に詳しい伊海孝充先生（法政大学准教授）、安田登師（ワキ方能楽師）、高澤祐介師（狂言方能楽師）、囃子方、諸師方々の協力を得て約一年をかけて能の台本を完成しました。尚、当日ロビーにて『真田』復曲謡本を限定300部（税込1,000円）頒布します。

平成26年10月18日(土)

15時00分(開演) 14時30分(開場)

平塚市中央公民館  
大ホール

出演者 加藤 真悟(能楽師)ほか

指定席 3,000円 自由席 一般 2,000円  
学生 1,000円

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※この事業は平塚市文化振興基金の一部を活用して実施しています。

チケット発売日

平成26年7月12日(土) 10:00から

電話予約

平成26年7月13日(日) 8:30から

●文化事業課(平塚市民センター内) TEL. 0463-32-2237

プレイガイド

- (公財)平塚市まちづくり財団 文化事業課(平塚市民センター内) TEL. 0463-32-2237
- 山野楽器(平塚ラスカ4階) TEL. 0463-27-1930
- ヨネザワ楽器(MNビル1階) TEL. 0463-23-7097
- ラディアン(二宮町) TEL. 0463-72-6911
- くすの木(平塚市中央公民館内) TEL. 0463-34-0456

主催／平塚市・(公財)平塚市まちづくり財団・湘南ひらつか能狂言実行委員会

写真提供 前島吉裕

お問い合わせ／(公財)平塚市まちづくり財団 文化事業課(平塚市民センター内) TEL.0463-32-2237 <http://www.hiratsukazaidana.jp>

# 第五回 湘南ひらつか能狂言

平成二十六年十月十八日(土)午後三時始  
於・平塚市中央公民館

## 復曲『真田』について

解説

法政大学准教授 伊海 孝充

## 大磯

復曲 おおいそ

独吟

加藤 眞悟

## 盛久

もりひさ

仕舞

梅若万佐晴

## 七騎落

しちきおち

休憩(二十分)

梅若万三郎

地謡

八田 達弥  
伊藤 嘉章  
梅若 紀長  
遠田 修

能

## 真田

復曲 さなだ

田

ワキ 俣野五郎 安田 登  
ワキツレ 長尾新五 井藤 鉄男  
ワキツレ 長尾新六 高橋 正光

大鼓 大倉慶乃助  
小鼓 飯富 孔明  
笛 松田 弘之

アイ与一ノ從者 高澤 祐介

後見 中村 裕  
梅若万三郎  
梅若万佐晴

地謡

青木 健一  
梅若 梅若 紀長  
遠田 雅一  
伊藤 嘉章  
八田 達弥

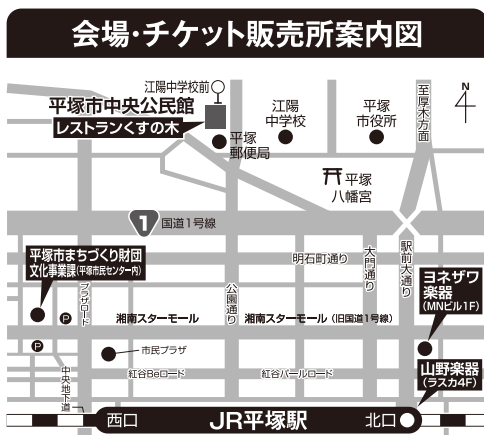
終了予定午後五時

## 〈会場〉 平塚市中央公民館 大ホール

※駐車場には限りがあります。  
公共交通機関をご利用ください。

■JR東海道線 平塚駅 北口より  
4番線バス「江陽中学校前」下車  
徒歩1分  
(「平67」は通りませんのでご注意ください。)

■JR東海道線 平塚駅  
北口または西口より徒歩15分



### 独吟『大磯』

曾我十郎祐成と心を通わせた大磯の長者の女虎御前の物語です。江戸時代の謡本が残っており、三番目物に仕立てられています。祐成が本望を遂げるも虎御前の募る想いは消えがたく僧に回向を頼む前場の最後の部分を謡います。

### 仕舞『盛久』

平盛久は、清盛の側近国盛の八男で、心ならずも奈良の寺社を焼き討ちした咎で捕えられ、土屋三郎に付き添われて京から鎌倉に護送される間、清水観音を念じ続けます。由比ヶ浜で斬首されようとしたとき、刀が折れてしまいます。これを聞いた頼朝が罪を許し、盛久が頼朝の前で喜びの舞を舞います。仕舞では、この舞の部分を演じます。(舞の前には、由比ヶ浜から西を見て「唐ヶ原もこのところ」と謡われています。)

### 仕舞『七騎落』

石橋山の合戦に破れた頼朝二行が、湯河原の山中を逃げ惑ったあげくに、

土肥実平の用意した小船で、真鶴の海岸から房総半島に脱出するときの話です。頼朝の命令により実平は子を敵の待つ陸地に下船させますが、和田義盛の助けにより再会を果たします。仕舞ではその後頼朝から実平の忠勤が讃えられる場面を舞います。

### 能『真田』

石橋山での昼間の戦いは、なんとか凌いだものの、夜戦はまず一騎打ちから始まることになり、真田与一は頼朝からその役を任せられ、加えて副將軍を賜ります。岡崎義実と真田与一はこれが今生の別れと別れを惜しみますが、この合間に頼朝を逃がすことができれば武士の誉れと与一を送り出します。大庭景親の弟、俣野景久と組討になり、与一は景久を組み伏せませんが、短刀の鞘が血糊で抜けず、駆け付けた長尾新五、新六の兄弟に斬られ、与一の傳陶山文蔵も三人に斬られ果ててしまいます。かくて、その場を逃れた頼朝は、後日石橋山に与一を祀り、鎌倉幕府が成ったのも与一の功績と讃えます。